



883

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or date.

Handwritten characters on the right edge of the right page.



600
223

三七全傳
編 白夢南柯後記卷之六

後帙第二



羈旅の新聞

東都

曲亭馬琴編次

羊七初花の夜の玉枕御前のかん惹き小より辛く命を
 助られ水門を脱せんとす親の心の事と云ふ公のあつた
 ちら主君の采地は隔りをらん守を忍びまらざる小似たり直に
 大和を立退く事と云ふも妙もせめと云ひて城外より留らざれば初花を
 扶掖つ浪速を投す通宵走る程又次の日の黒昏は彼津小いぬれ
 旅宿をりらめら小五七日逗留す平城の肉体を定むる牙
 松平作が自殺す父の罪を勧解すうぢら羊之進の進めり
 主の勘當を免さんらうて灰ふりかえふけれど平作が今果はげ

南可受已美

らるる主君順勝の内意を人の言ふもあらねば。半七もついで。これだけ
傳言づれば、されど父が閑居恩免の御伏に一定なれども。この時、
堪へらるるも、只悼むるの平作が枉死なり。彼まのけりあはれ。二
母のあらたけらぬも、さらば夏山が中々のふあらん。とどひか、半七
夫婦は今更よ。よが身物かんと更よ。歎の教をいと慰む。し、
末も。よ。頃日の旅あがら。故へのそらあつた。夫婦顔をはたあつた。
らるる彼更らら相譚つ。よ。半七のめう。限あり路費をよ。限あり
旅寝ど終よ。飢渴よ。苦み。市人の袖よ。け。縣居の門よ。主
親の名よ。汚よ。つ。よ。あ。らん。らん。平作が兄あがら。志い。け。か。ん。か。
身を殺し。親の罪を賤。よ。を。せ。よ。さ。れ。よ。ん。よ。ん。水。の。月。よ。
愛。仇。ある。宿。の。花。の。枯。ね。よ。薄。命。の。係。る。所。飲。せ。ら。れ。あ。ら。色。情。の。奴。と。あり。と。
八海の御沈よ。浮名をよ。阿容。阿容と存命をよ。二親侍。も。あ。ら。ぬ。
憎ても憎あつて。よ。ひ。あ。ひ。ろ。よ。と。ろ。ひ。あ。り。ん。あ。り。ろ。よ。玉枕御前の叮嚀
小論をよ。あ。ひ。よ。ま。も。あ。れ。よ。故。よ。損。命。よ。ら。ど。只。身。を。碎。れ。骨
を。移。よ。も。風。流。士。の。宝。刀。を。索。出。し。を。主。君。小。な。す。ろ。よ。身。の
恨。を。勸。解。よ。よ。よ。よ。せ。ら。ら。小。主。親。の。笑。顔。え。も。時。も。あ。る。な。り。
よ。れ。り。よ。小。ひ。の。如。月。米。谷。ある。木。精。塚。の。崩。た。る。ろ。有。一。夕。一。絲。乃
秋。火。西。を。投。よ。飛。失。たり。と。風。声。あ。ら。ら。ん。全。く。彼。宝。刀。の。塚。よ。り。あ。ら
西。國。飛。去。たる。も。あ。ら。ん。ん。ら。ん。ひ。吳。王。の。宝。劍。を。の。づ。ら。飛。去。と。楚。國。一
い。あ。ら。よ。漢。土。の。書。よ。い。え。たり。西。國。一。か。果。も。あ。れ。よ。陰。の。大。か。風。流。士。
の。見。よ。大。内。家。の。老。臣。陶。晴。賢。が。家。日。あ。れ。よ。飛。去。たる。が。一。定。あ。ら。ら。ぬ。
風。流。士。の。あ。ら。ら。ぬ。彼。地。よ。あ。ら。た。る。あ。ら。べ。よ。ま。の。街。よ。あ。ら。賣。下。小。向。也。小

丁がらみ野は違ひぬらぶら直に周防に赴け密に小彼宝刀を索めん。
とらぶらも陶の才が養父あり。又大内殿の主君の縁者よそをのたまふ。
のほらぬがまき。明白にありけり。外より憑じ樹下もや。かんやを
竹とらひあつと問ひ初花且く尋思へり。こらわが足まこの室にせりごと
作り昔年風流士の宝刀を拭きとて。候き又を毀らふあつた面目を失ひて
遊り善洛を逐電せり。刀治同樹とのりの妻の。こらわが足まの笑
母のゆゑに親族よを作りしとぞ。あつと同樹の周防國に赴きて竹がの
つとあり。ゆゑなるまの作りが。あつとこらわの彼処より。音耗したるこらわ
ゆゑ。あつと今も存命とあり。あつたゆゑにわづら行て名告
を只の舊を好を他とて。ゆゑに強面りてとぞ。あつたゆゑにわづら行て名告
回答すれば。羊七はさくゆゑに竹がの微妙ゆゑにわづら行て名告
彼同樹がゆゑに竹がの彼が善洛ゆゑにわづら行て名告ゆゑにわづら行て名告
丁らるるべたれ世ふあり。あつとゆゑにわづら行て名告ゆゑにわづら行て名告
再生の恩を稟なるゆゑにわづら行て名告ゆゑにわづら行て名告
あつとゆゑにわづら行て名告ゆゑにわづら行て名告ゆゑにわづら行て名告
夫婦あめやうに商議つ。次の日浪義の客店を出て和泉の境まき。
ゆく程に往返入るる足を空とて。あつとゆゑにわづら行て名告ゆゑにわづら行て名告
羊七初花の道次あり。市店に立ちりんと。あつとゆゑにわづら行て名告ゆゑにわづら行て名告
義逆のるを空とて。あつとゆゑにわづら行て名告ゆゑにわづら行て名告
なり。忠義の志ありゆゑに。あつとゆゑにわづら行て名告ゆゑにわづら行て名告
く。陶が横領ありゆゑに。あつとゆゑにわづら行て名告ゆゑにわづら行て名告

南可後日記

義隆義基勢多れぬ。槐姫もいそ安泰に坐せられた。や婦人の心こ
 とて、賊手を脱れぬ。路頭は沈落しぬ。婿の心こ
 りの心ひし。才陶五郎の養父はよ。君を救せり。のあり。と
 りの心ひし。又公の心ひし。さ。夜を日小。彼地へ走らざり。
 槐姫の先途を救ひならざり。づれの日。忠義を竭さん。と
 ぬ。羊七の只愛小初花を扶掖し。焦燥も途遙ある
 旅るれ。女子の歩の心ひし。十月の下旬辛く。備後と安藝の
 封疆も。三原のま。ま。前。陶が盛威小馬後
 と。沼多の本。新園を居貴賤を。元男子たる。の
 陶が郎黨。遍。関防牌面。山口の采地。入。を許
 さん。僅に尼法所。その妙法を脱。女子の五士以上の。入。を
 許し。出。を許さ。周防の山口。五日。路。羊七夫
 婦。園。小抑苗。ふ。木契
 容易園を越ら。三里。五里。の程。初
 花を。山口。遣。存。定。ね。治。同。樹。を。訪
 せん。羊七の。沼多の本郷。小後。寝。を。後。た。ぐ
 関の戸の。今。今。今。暮。一。と
 天文二十一年。春。後。立。竹。思
 焦燥。後。立。竹。思
 六月。春。生。中。白。路。費
 玉枕。十。枚。の。白。銀。を。路。費
 一。日。由。餓。た。る。と。れ。す。ら

残すは...
 今十日...
 食する外...
 一日...
 街頭へ出...
 或の竹...
 痘瘡の痕...
 顔...
 爛...
 女僧...
 彌陀の名...
 錫杖...
 鳴...
 三原...
 醜...
 怪...
 稚児...
 夫婦...
 今...
 法善寺...
 祖母...
 作...
 路費...
 布...
 腰...
 身...
 錫...
 彌陀...



拾遺
微笑
暗
羊七
花

百可後已

羊七

羊七

尼

尼

百可後已



小の女。を。も。れ。り。と。う。た。よ。母。苦。提。の。道。志。あ。の。り。と。あり
 け。く。ゆ。れ。ら。の。人。と。ら。え。あ。い。ぬ。竹。処。う。坐。す。と。同。半。七。突。て。現
 宜。さ。る。如。く。去。年。の。九。月。浪。速。う。り。俄。頃。よ。ど。ひ。と。あり。周。防。の
 山。口。へ。赴。く。め。の。あ。る。が。この。新。関。小。折。苗。せ。ら。れ。ら。ば。ら。う。春。を。迎。
 路。費。も。今。の。竭。ん。と。され。れ。も。も。く。べ。た。う。え。ゆ。も。も。う。ど。あり。な。尼。山。前
 たら。常。よ。の。関。を。越。あ。あ。る。べ。尚。関。防。牌。面。る。ん。ど。の。物。を。齎。
 ぬ。ら。ど。名。銭。代。て。あ。ら。ば。夫。婦。が。落。れ。旅。衣。を。沽。却。く。も。買。取。る。べ。人
 を。救。へ。即。佛。慈。悲。の。菩。提。の。本。あ。る。と。初。花。り。ら。も。堂。を。合。て
 程。あ。く。憑。じ。樹。の。り。小。涙。の。雨。は。ら。漏。り。外。の。点。滴。は。墨。染。の。そ。で
 ぬ。ら。じ。つ。兩。人。の。女。僧。う。ら。点。頭。の。と。恋。せ。ん。且。く。先。達。の。女。僧。目。を
 拭。ひ。宜。小。長。衣。の。そ。ら。う。も。路。費。の。場。に。あ。ら。う。と。さ。す。と。め。の。い

あら。特。小。婦。女。子。を。推。乃。あ。ハ。下。一。は。痛。く。ど。ひ。作。ら。れ。あ。れ
 とも。人。小。貸。べ。牌。見。い。り。と。ぐ。の。関。四。月。の。ら。め。よ。至。ら。ば。必。定。用。と
 了。を。ゆ。て。ゆ。ら。今。あ。ら。う。初。せ。あ。り。と。信。中。不。懸。主。が。夫。婦。い。い。く
 早。を。失。ひ。又。い。の。う。も。う。り。う。が。羊。七。惱。め。額。を。拊。宣。小。所。さ。る。と
 ろ。が。う。女。子。を。推。乃。て。あ。く。旅。路。は。呻。吟。の。仇。あ。る。色。は。跡。を。埋。め。ま。を
 竟。る。の。の。ら。ん。と。ど。ひ。と。い。ん。の。ゆ。め。だ。ら。れ。る。女。子。の。ま。が。妻。あ。る。が。主。の
 お。親。の。お。ふ。物。を。索。と。と。周。防。へ。赴。ん。と。と。ふ。彼。地。の。擾。乱。は。便。あ。く
 も。百。七。八。十。日。を。空。へ。暮。せ。ば。小。あ。る。と。一。日。たり。とも。千。と。せ。の。秋。を
 孫。の。が。如。し。明。白。の。告。ぐ。ら。た。か。苦。し。さ。を。精。一。あ。ひ。て。善。巧。方。便。有
 う。ら。が。あ。る。の。ぬ。や。も。の。関。を。う。ら。も。越。さ。う。と。あ。れ。と。只。管。滿。心
 づ。め。れ。ば。先。達。の。女。僧。且。く。沈。吟。し。と。と。が。あ。く。在。ま。る。と。精。う。は。ひ

痛し。貸げん牌見のあつねども。うは一條の方便なり。こ
 とく。この同宿が負たる男見の事を。幼稚なれどもその買より。
 村長よ。請たる。関防牌面一枚あり。うち歎くが黙止がげんが
 をさるべきりのを。後の中は縣に入れ。ともあへゆるらる。此
 関を越さるべけれ。あん身も関た小越あつ。関防牌面を返
 しあひね。あま坊よ。人を救ふ。出家の行状あん身らる苦くも。
 且く。後の中へ入る。関のあり。過る。位も。音をも
 うらる。うらる。教諭。強。稚見を抱にありつ。
 あのが。後の中へ。縣。入。頭陀囊。一枚の牌見を。これに
 羊七小遍興。吾侪。沼多川の東村より。とれた草庵を。編る。
 毎日。小。原吉浦の縣へ。出。食。修る。の。あり。
 の南あり。拈華庵と。索あり。あこれ。あつ。と。の。羊七。拈華
 感涙を拭ひ。あ。宴。小。の。慈悲善根。を。の。後。の。つ。つ。つ。
 忘。ん。関。だ。過。り。ゆ。牌。見。を。返。進。ら。と。べ。れ。と。夫。婦。篤
 女。僧。を。速。天。へ。舟。を。持。て。欣。悦。面。を。見。先。達。乃
 女。僧。を。え。共。に。微。笑。を。周。防。の。山。口。と。り
 せ。え。あ。の。山。口。の。索。を。廣。た。城。を。容。易。と。れ
 かく。けん。ゆ。る。人。を。訪。せ。あ。の。と。わ。づ。ら。る。と。い。つ。と。
 羊七。答。る。外。祖。が。由。縁。の。り。の。れ。ど。二十餘年。中。絶。た。ま。て。ぞ。
 吾。侪。の。名。を。め。た。る。の。の。精。ま。の。ち。る。も。ゆ。り。と。舊。
 好。を。ら。る。當。よ。も。な。の。治。同。樹。と。い。の。の。よ。ゆ。と。い。ふ。
 す。れ。ば。女。僧。ゆ。ら。ら。と。忘。頭。件。の。同。樹。と。い。の。人。の。去。年。の。冬。

迂化(びんげ)のひし。しが括義庵(くわくぎあん)の先住(せんじゆ)のわよ。舊縁(きゆえん)ある人(ひと)のまじり。吾侪(われら)も粗(あら)れをば。王(み)それの山口(やまぐち)の在(あ)らざ。天神山(てんじんさん)のわあ。氷上(ひかみ)の郷(さと)とたづ。ひあへ。彼人(かひと)齡(とし)七十(ななじゅう)のあまれ。とも。あは。徒(た)る。うら。の。慥(たしか)に。す。け。り。し。口(くち)も。く。幕(まくら)あ。んと。それ。が。退(ひ)る。べし。関(せき)の。潰(つぶ)れ。た。く。ら。れ。ぬ。あ。ふ。さ。く。越(こ)え。あ。へ。と。ひ。う。け。く。携(た)び。よ。後(あと)を。脊(せ)負(お)ふ。同宿(どうしゆく)の。女僧(にょそう)り。ろ。共(とも)の。遠(とほ)く。き。り。去(さ)る。ふ。羊七(やうしち)も。初(はつ)花(はな)も。黄泉(よみ)は。佛(ほとけ)の。あ。へ。る。が。如(ごと)く。あ。を。一(いち)背影(せいえい)を。あ。拜(か)ぐ。纏(まと)く。裁(さい)首(しゆ)は。き。り。う。く。さ。く。物(もの)う。く。ら。り。聚(あ)め。主人(しゆじん)は。別(わか)れ。を。告(つ)ぐ。又(また)忙(いそ)ぐ。走(は)り。出(で)つ。件(けん)の。牌見(はいみ)を。り。き。障(さや)る。と。も。ろ。く。関(せき)を。過(こ)り。じ。う。ぶ。に。ま。え。吻(くち)と。息(いき)を。つ。た。直(ただ)よ。沼多川(ぬまたがわ)の上(うへ)を。彼首(かしゆ)と。索(くわ)め。り。ふ。括義(くわくぎ)と。い。の。庵(あん)の。後(あと)に。居(ゐ)る。日(ひ)も。既(すで)に。暮(くれ)み。け。れ。ば。せ。ん。ま。さ。み。が。く。て。よ。る。夜(よ)亥(がい)中(ちゆう)の。以(も)及(およ)ぶ。四日市(よっぴち)と。い。の。小驛路(せうえきぢ)を。も。い。り。て。宿(しゆく)を。求(もと)め。夫婦(ふうふ)彼(か)女僧(にょそう)が。る。を。う。ち。相(あ)話(わ)つ。羊七(やうしち)が。い。の。あ。う。初花(はつはな)の。初(はつ)種(たね)より。玉枕(たままくら)御前(ごまへ)に。給(たま)ひ。め。す。宅(たく)の。あ。る。日(ひ)の。あ。り。じ。う。ぶ。怪(あや)しの。平太郎(へいたろう)が。面影(おもかげ)の。認(たづ)ね。あ。る。べし。け。の。元(もと)は。浦(うら)が。肩(かた)の。稚見(わらわ)の。平太郎(へいたろう)より。似(に)る。く。い。の。あ。の。が。公(こう)の。迷(まよ)ひ。の。あ。ら。ね。と。慥(たしか)に。誨(し)ら。れ。た。草葺(くさむき)を。索(くわ)め。て。さ。も。不(ふ)公(こう)議(ぎ)ら。ら。ざ。や。と。い。が。初花(はつはな)守(まも)り。宣(のたま)ふ。所(ところ)も。あ。り。あ。ん。彼尼(かに)の。祢達(ねだち)の。顔(かほ)を。い。の。と。あ。ら。く。し。り。れ。声(こゑ)さ。あ。り。竹(たけ)と。や。らん。す。熱(あつ)なる。人(ひと)の。如(ごと)く。あ。の。よ。これ。の。日(ひ)未(ま)念(ねん)の。あ。る。辨財(べんざい)天女(てんにょ)の。化(か)れ。し。て。関(せき)を。越(こ)え。さ。を。あ。ひ。り。ん。と。尊(たう)も。有(あ)り。た。利益(りやく)示(し)す。と。稱(せう)賀(が)す。れ。羊七(やうしち)有(あ)り。と。惣(そう)地(ぢ)曉(あき)す。遂(つい)に。再(また)び。女僧(にょそう)の。菴(あん)を。索(くわ)め。て。宿(しゆく)を。う。く。さ。め。る。と。五昔(ごせき)あ。り。て。周防(すうぼう)國(くに)佐(さ)波(は)郡(ぐん)山口(やまぐち)鶴(つる)峯(かみ)の。城(しろ)下(した)に。り。て。遠(とほ)く。あ。る。氷上(ひかみ)の。小(こ)い。も。た。つ。刀(た)治(ぢ)同(どう)樹(じゆ)が。宿(しゆく)所(ところ)を。訪(たず)ね。舊縁(きゆえん)の。縁(えん)を。再(また)び。り。小(こ)と。亮(りやう)明(めい)し。

南可後記卷六

ま婦まごがううとをとままよよけけるるにに同どう樹じゆののくく承うりりてて貧う家ちなな言ことははりり。

暑あつのの夏なつのの花はな乃なり上うへ

刀や治ぢ同どう樹じゆかかるるのの第だい二にのの巻まき冬ふゆ回かいのの晚あけ稻ねとと頸いづせせ條ぢょう下げ全ぜん女にがが親おや母はは

晚あけ稻ねがが昔むかし物もの々々のの祖おやのの名なのの安やすええとといいふふののままままのの本もと末すえとと詳つづはは

ささとと原はらのの同どう樹じゆとといいふふのの近ちか江えのの観くわん音おん寺じのの塔たつ下げのの刀や治ぢかかがが家いえのの

年とし々々つつてて大おほくくそそのの業わざ紙しよよじじすするる。ささららにに京きやうのの刀や治ぢ同どう樹じゆとといいふふのの

身みままりりてていいののけけるる女に見みひひろろあありり。同どう樹じゆがが後ご家けのの年とし々々三さん十じゆむむろろ

ののままりりるるくく媒まひめめあありりてて今いまのの同どう樹じゆをを入いままととすす。ささとと刀や治ぢのの名な蹟せきをを

ままりりるるもも。ののこころろ室むろ町ちやう家けのの武ぶ威いやややや小こ衰すいてて京きやうのの回かい舎しゃのの年とし々々毎まい小こ

ああれれ。ままりりるる。四し民みんののくく活かつ業ぎやうののままりりるるをを失しふふととままりり。ここれれははよよううてて今いまのの

同どう樹じゆがが時とき々々至いたりりてていいまま産さん業ぎやう衰すい微びしし。ささららにに昔むかしののままりりるるもも

あありりるるにに華け落らくししるるにに借かりり刀や治ぢああれれ。僅わずかよよそそのの條ぢょう波はととてて盧ろ宅たく五ご七しち

口くちとと飼かひ不ふ足そくままりり。ささららにに女に見み増ま穂ほみみ。白しろ拍ぱく子しのの男おとこ舞まひるるんんどど

習ならひひてて室むろ屋や小こ夏なつとといいふふ種あひ号ごうささいいひひくく。ささららににそそのの母ははのの情なほ愿ねがみみ

あありりるるにに継ついで又また同どう樹じゆへへ生なま才さいとといいふふ。とと愁うれふふたたりりののああれれにに女に見み増ま穂ほはは

托たく胎たいをを習ならひひ。ささららにに花はな着ちやくしし生なま三さん月げつとと果はもも義ぎ落らくのの猶なほ伸のびまま給たまふふ

ささららにに妻つま側わき室むろとといいふふ。ちちののがが生なま涯がはとと安やす樂らくままとといいふふ。とと計けい行ぎやうしし

増ま穂ほのの大だい和わ緒お井い殿でんのの近ちか江え今いま市いち全ぜん八はちとといいふふ。壯さう伎ぎとと假かり初はつののそそいい臥ふし

せせいいとといいふふ。忽たち地ぢはは有ありり。男おとこ見みをを産うままいいけけままとといいふふ。とと計けい行ぎやうしし。全ぜん八はちをを犯おとすす

科かありりてて大だい和わとと追お放はなせせれれ。くく世よははままりり。見みとといいふふ。ささららににいいふふ。とと計けい行ぎやうしし

ままりりるるにに増ま穂ほののままりりるる。夏なつ工くわうとといいふふ。不ふそそううつつ。竟つひははむむろろくくままりりるる。

ままりりるるにに同どう樹じゆがが妻つま小こ田でん井いがが為なすす。骨ほね肉にくのの初はつ孫そんるるんん。とといいふふ。不ふ便べんのの

のよそひて浪速より乳母を以て養ひて居りて受む後同樹の
 繞井殿は平城へ赴き風流阴阳の宝刀を拭せられし事
 怪く砥は打當門の太刀の刃を毀みれり軽らざる哉なるれば
 重き科罰をうりし不徳井の執柄蟻松曲膳が前妻と同樹が
 妻と従弟女ありこの由縁をりて瀆責の沙汰は及まば悪く
 京へ歸りてぬれどもさるるれば年々世帯を操操く
 脱まざる債多しなりえん死とあるものありねど親の借残を
 返さざるはむじき平城よりさるる面目を失ひるは阿容と
 京より活業の事ありとておのが不幸といひし孫次棄妻を
 携りて善治を逐電しつべらる内家經營目く山口鶴峯の
 漆下を九條よりひらりその熱鬧遙よりさるる立寄るは
 同樹隠れてゆくはバ国防の山口赴きしはけきとさるる衣袋由
 るけきバ物とかがやいた鶴峯の城下への住宅をのめかたりや
 ありけん山口へ遠くぬ氷上といふ御よりある店を後造ひ
 ちふて焦たる刃請るる深るんとて賣由一買由と世を流るよ
 その性究て腹さるるれめりなれば利慾なきりて人を欺き焦
 たる刃とよく拭あらりて價貴く賣と志むるは妻の小田井の
 これを傍痛さるといひて言はれ場一凍よけれど同樹の事よ
 ある時こそ入まされその刃その家を焼ハツ二ツハ妻も物を
 いらしこれ今既遠く国防の氷上へあり更ニ世の経営をさ
 るればよろうがおのがまふ事奉動て絶て一言由小田井が凍と聽む
 たりして又十年ありて行くは同樹のすくく貪婪のあらは

南河後日書

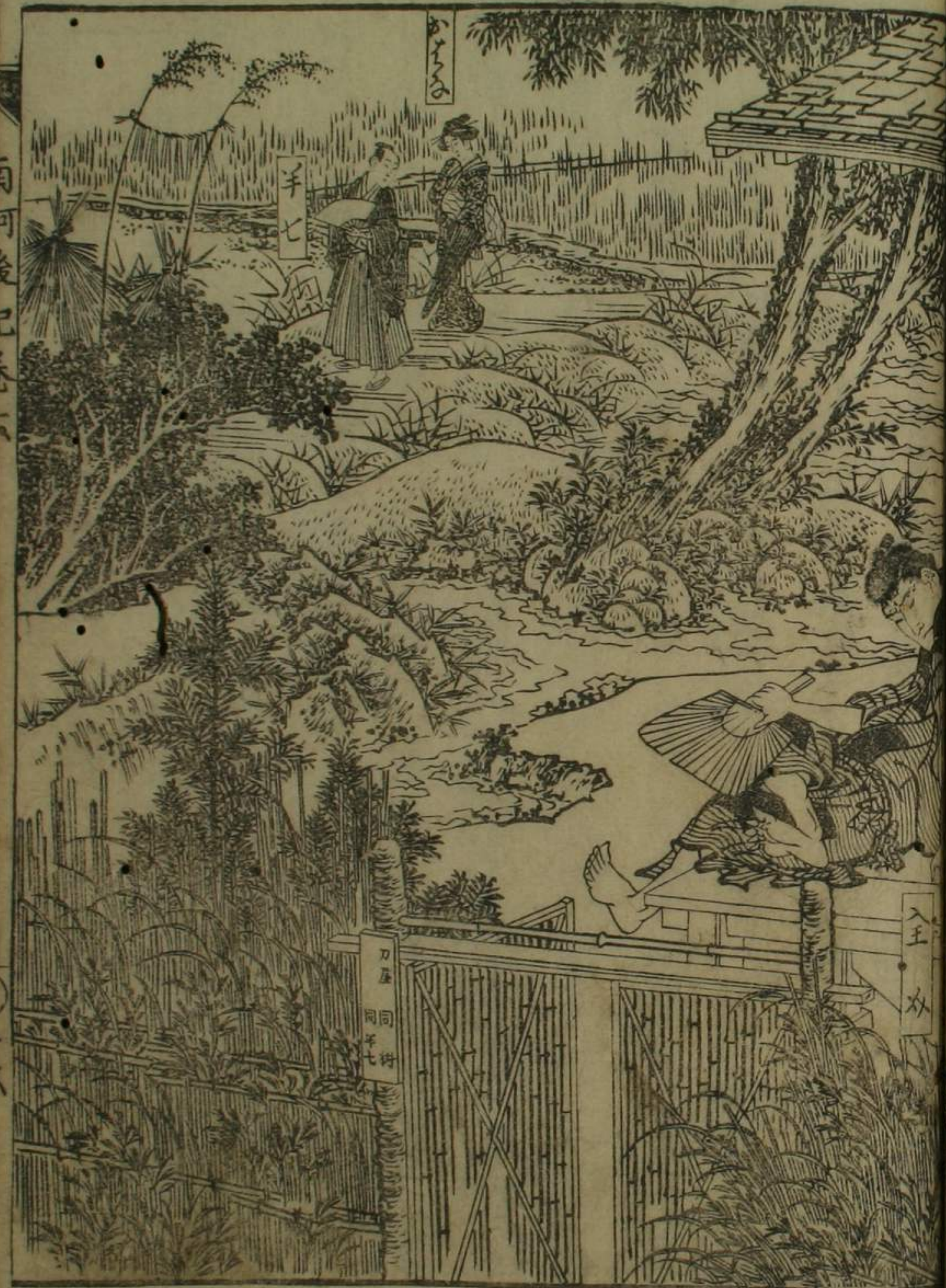
十

あつ。さうらね西の...とせよ。小回井の牙を形...
世の勢は羈きて...
孫氏棄て去るぬ里は呻吟...
只ひとりける孫氏棄て...
牙さるる後の世は罪あり...
安藝國高宮郡 沢田川の上は草菴を締びつ。十年あま...
去稔天文二十年。冬十二月十五日は往生の素懐と...
比丘尼の草菴は同宿してあり...
捨華比丘尼 捨華草は炬持して更には捨華菴と号し...

形見の遺物を...
同樹よと...
杜年よ異なる...
物故より紙...
得つる...
年由く...
ありける...
退種人赤根半七といふ...
うを...
典膳が孫女...
いふ...
白河後日記巻五
十一

りけまど。同樹ハ元來信ハ休養小勇むりのよあふ移バこれの
 友と懇念せねど。只初花が容止るもくは優まていと艶妖るを
 えて。肚裏竊ハ絞汗るのまば一談も乃るバ信チ小致待てく。
 この日より件の主婦と止めら。殷懃ハ勅り慰めけり。志うれども
 廿七等。かゝる貧家の食客とありて。乃るまどものく月日と送る。六
 がつたるの夜所考ありとて。まハ刀と拭て疾る。ひ或ハ同樹ハ代アて。
 村長縣正の第宅とうちめづら。妻ハ火と打。あを波ミ。或ハ人の
 為よ。ありたる夜ととれ洗ひるどせ。へ同樹ハ結白身ひとり。ほ
 時より。世安くさひるがら。這奴ホハ。か肚裏とがま。で。松苗の
 棟より。あやで。さよとんとてや。汗水を流し。つ拵。了こそ。空丸。り
 白徒るん。給報といかりの取。ぬ。うた小厨と炊。妻と兼。は。けり。と
 竊よ。あ。ま。笑。み。と。ん。廿七。主婦。ハ。つ。を。あ。と。さ。同樹。が。憑。り。げ
 る。よ。安。堵。て。春。と。暮。夏。と。送。り。て。雷。鳴。月。の。炎。暑。堪。が。た。を。も
 物とせ。と。ま。り。く。活。業。よ。身。と。あ。ね。る。バ。刀。と。拭。と。て。僅。四。五。个
 月の。子。練。る。れ。ハ。同樹。よ。う。う。芳。也。も。と。れ。四。方。の。差。主。と。う。ち。巡。り。て。
 刀。劍。と。近。他。の。の。その。注。文。を。う。け。の。つ。る。と。へ。その。性。格。剛。壯。使
 る。れ。ハ。同樹。の。傍。ま。り。と。て。人。を。ま。ま。ら。ま。取。稱。美。し。て。廿七。と。と。ぞ
 鳴。び。り。の。かり。し。程。よ。廿七。の。日。來。ハ。同樹。が。い。さ。ぬ。を。疑。ひ。て。さ。う。ゆ
 せ。ま。る。縁。由。と。告。げ。り。が。彼。が。い。さ。ぬ。信。チ。小。致。待。を。ん。て。いつ。や。ぞ
 匿。む。と。今。の。同樹。ハ。相。踏。て。風。流。士。の。室。刀。と。索。を。や。と。あり。ひ。て。
 有。一。日。竊。ハ。同樹。ハ。對。ひ。て。その。身。を。主婦。の。來。歴。風。流。士。の。大。刀。の。と。
 一。五。十。を。物。と。う。ら。り。の。い。ま。の。人。と。も。あ。ら。ぶ。の。う。共。よ。力。を。戮。し。て。彼

宝刀を索出し。某夫婦と忠孝の。人とりてめりまう。このま
うさび。復讐日由。あつ。厚く報ひて生涯を安らよ。さう。進ら
せん。て。町寧。相替。く。同樹。夢て。こ。つ。れ。と。こ。を。あ。れ。と。う。よ
う。く。飲。び。る。が。耳。を。側。て。眉。を。鬚。め。原。本。和。殿。の。忠。孝。の。人
る。り。妻。女。の。貞。操。の。婦。に。な。れ。け。の。ま。を。浮。る。情。の。か。の。あ。り。て。
後。く。く。も。ゆ。共。に。呻。吟。つ。この。う。ら。う。う。で。迷。ひ。ま。ひ。ぬ。と
の。ま。ひ。ひ。人。を。ま。る。る。僻。目。あ。り。た。ま。ま。ま。の。ま。ま。大。内。殿。の
あ。の。く。も。教。ま。の。ひ。の。彼。風。流。士。よ。う。う。の。起。ま。る。去。さ。の
如。月。あ。や。あ。つ。けん。鶴。峯。の。所。侍。一。口。の。大。刀。を。捨。ひ。つ。う。ま。を
大。内。殿。に。献。ア。つ。ん。ま。る。人。あ。り。て。う。ま。る。ん。続。井。家。の。重。宝。し。る。
風。流。士。の。大。刀。と。や。う。せ。う。が。着。陸。あ。う。飲。び。ぬ。ひ。て。豊。後。陶。殿。よ
賜。る。風。流。女。の。大。刀。を。返。し。進。せ。よ。陰。陽。一。對。と。く。秘。藏。し。ぬ。ん
と。仰。せ。よ。陶。殿。の。年。末。の。威。勢。と。の。ま。て。う。け。ま。い。ど。その。風。流。士
と。も。ま。の。の。賜。せ。陰。陽。一。對。と。く。秘。藏。つ。ま。う。ん。と。の。ま。の。ま。う。
主。従。不。和。よ。う。り。て。大。内。殿。滅。亡。の。ひ。防。長。豊。筑。四。个。國。の。中
あ。る。の。の。有。像。無。像。猫。中。枚。子。由。延。の。上。の。野。牙。や。を。も。ま。ね。陶。殿。の
物。と。る。ん。件。の。大。刀。を。殊。更。よ。晴。賢。秘。藏。志。の。あ。り。この。里。人。ホ。も
と。ま。く。つ。め。り。が。ま。が。彼。宝。刀。を。つ。よ。欲。と。お。り。の。も。七。世。の。玄。孫。い
あ。の。ま。で。取。ゆ。が。た。不。あ。ら。う。ら。つ。う。く。物。を。案。よ。れ。よ。又。よ。ま。か
る。れ。あ。の。の。だ。な。つ。う。と。る。れ。陶。殿。の。郎。君。ん。お。ん。身。が。才。あ。り。今
既。に。親。胞。兄。弟。東。西。よ。ま。り。て。雙。敵。の。ま。ひ。を。ま。と。も。肉。縁。の
情。い。その。中。よ。の。ま。ま。ん。ご。ま。う。又。お。の。れ。の。ま。ま。二十。餘。年。乃



南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

五

今ハ訪来る人あはじいぞや持葉よ気つけしと。独楽せんといはる
 ごと。棚より陶器よりおろせ不忽地茶と酒の香とるよ。眼を
 細く流し。蚊や火降は炭少た起して。陶の尻を灰は堀埋小頭を
 傾け指を儂ひとり笑て点取おくら。あくる貫布の袷包を脊負
 する市人か侶ある倭子の後まて来る紙つてなうんうら。同掛が
 門ある障子よと掛尾落と礮と引開且同掛はらうと踐きて。
 側んととる背へみと突やや小膝なる舟。誰あらんとさひよ。
 敗賊の四五六よね。喉門もせで老るめの紙うら。髪とよあある。
 障子の骨よと鐵で編ぬ用蓋よとせよ。ややく脚き一
 統向と障子の音を聞あくさんう。思く和郎あてありけり。と
 喧ハ四五六も負する包とたおろして。頂より流る汗と拭けり。けり。

炎暑小門さうと。かん身かおとさふとさふ。鹿やよ障子を聞や
 全伴この後辰野居の坪へおと移りて。脾撓肚で聞られぬと
 うら。天へうら笑ひ。四五六が亦たても。まるとやて人の家の荒を
 見出し。てらふでね。銀ぎよ貸せの遣他とるあ。とてハるらうら
 点取正月の三ッある年。足るよ借多くと。り。俗國の浦もても。ま
 りのへ金あるのへ借残。去年の二月大和うら。物を追ふてまむも。
 くら。来て下。案西の都といひりて。なを。大内家の城下るん。世
 ける。瘦著由うら。と。それありけり。に。足と強め。些。刺漆。由。出。ま
 や。出来。よ。射。つ。破。つ。の。大。台。鏡。や。や。世。間。長。閑。く。る。り。て。も。一。件
 瓢子のつら。でも。一。件。け。の。奥。敷。ま。ま。い。ん。の。人。五。百。が。在。錢。で。松。刀。光
 三口。ま。で。け。了。の。後。家。鞆。の。亭。主。の。好。る。る。赤。鱈。夜。食。の。菜。も。

ナ

ハ

あり難る。荒布あらいぬふぬるる敷下敷下備びるるとと祇ぎふふ。ひとりくひとりくま
 ろろ出いでせせばば同どう樹じゆのの改かへををたたたた掉た。龜木かめぎよりより藤牙ふじがのの妻つまいい敗あや靴か疾はや格かく
 夫おつと者ものよりより焦あせ刃やいばとと五ご百ひゃく元げんかか奥おく敗あやとといいててのの齒は莖かきへへととららかかじじ。猫ねこは
 見みてて竊ひそままるるののととああごごもも笑わらへへばば四よ五ご六ろくのの赤あか袂たもとへへ押おつつまま。ああららりりどど
 ここままにに納おさめめせせんんかか。納おさららぬぬのの全ぜん女にょががるるのの五ご口くち儂じゆんかか浪なみ速はやはは在ありり日ひ
 よりより。いいままははままるる友ともととららるるべべ彼かれもも又またああららととももああのの地ち方かたへへ来きてても
 本もと流ながははるるてて。果はた敢かんとといいたた流なが業ごうへへええせせとと。ととううくくままるるはは氷こ上の上のの々々よよ。
 刀やいば治ち同どう樹じゆとといいふふ人ひとののああららうう級きゆう傳でん。それそれのの五ご口くち儂じゆんかか外ぐわい祖そ又またああららく
 とといいままるるああららくく。娘むすめ母ははのの遺い言げん此こゝ彼かれりりつつてて。孝こう順じゆんはは養やしやめてて。晩ばん年ねんと
 公こう易えきくく。送おくりり。彼かれとと彼かれかか情じやう愿げん當たう今いまのの仕し伎ぎああのの瑞みづ々々奇き特とくののめめ。
 おおんん身み由よし飲のびびああららんん。ととああららてて。曩なうよよおおててままららんんのの外ぐわいはは強つよ面めんでで。
 亦また後ごよよせせももつつけけれれむむ。下した物もの數かず計けいでで六む斎さいのの市いちああのの春はるよりより中なか
 絶たむむ。面おもてととああののささるる四よ五ご六ろくかか。面おもてはは愛めてて全ぜん女にょとと。祖そ孫そんのの名な告つりり
 むむひひねね。とといいふふせせももああららむむとと改かへをを掉た。肉にく縁えんままるるののままとともも。むむららししをを
 つつのの孫そんででももああららんんかか。彼かれへへええ来きままるる子こ。生なまままららぬぬああららくく。祖そ父ふ祖そ母ぼはは。
 恥ちををああせせしし。出いで来き損そんひひ。仇うらみ人ひとのの末すえとといいひひ絶たてて。襦じゆ袷あしの中なかはは毎まいああららんん。
 今いま更さらええままららむむ死し志しててもも用もちるる。持もちはは渠あやう奴やつがが面おもて魂たまへへ彼かれ猿さる樂がくのの犯とが云いふふ。
 太た郎らう冠かん者ものめめ死してて何なに処ところやや。一ひと節しやく驚おどろ技ぎてて三さん文ぶんのの働はたらききああららししととも
 入いんんええむむ。生なま涯げん鳥とり實じつ律りつ者ものととてて人ひとはは佛ぶつとといいははれれてて。このこの幸さいひひ世よの
 撰せんむむむむ。ささるるよよららつつててのの同どう樹じゆ齡れい七しち十じゆああららむむ中なかでで。仁にん義ぎ五ご常じやうとといいふふ
 ことこととと算さん盤ばんああらら絶たててののせせむむ。孫そん養やしやふふよりより拘このの五ご器き冷ひや飯いひ一ひと碗わん食じきしてしても
 減へつつののことことととままららむむ。とと煙えん管くわんでで鼓つづくく。敗さい席せき薦せん埃あひままららししののままいいががららてても。

一

一

四五六騒ぐ気さるる。その氣さるるに宣ふ。一件彼全交の生たる
奸雄者。老實よんせせ油断さ。馬市よ出る日わく生馬の目とも
接ぎ。又奪奪りまると死の佛の消とも容易剥と。老功の外祖
さまも。律義ののとんせさるの酒樹は妙ある。亦さるとその至るぬ。
とのか同樹も呆果さ。夢の棄もまこと。今一交見る母とど。羽
伴ふて其のどといひも果ぬ。四五六も。衝と立て外面へ走り出つさ
振ひか前より門辺よ存在する。全女の肩よ被する。女其取と腰小
束に。馬歩よ内よ入て同樹か向ひよ膝おそう。外祖さるのえ立ちて。
けのちよせつひもぬの焼かまひり。老の僻眼旅よ在る。獲磨乃
灰市よ出てる。宜宜鳥。盜賊よこそ泊る。ね。下よひ足と揚るとはる。
踵で巾着をも切つぐ。人は酒と買るとはる。尻と破と本を食て。
狗よ勝る孫かひよ。おん骨か骨を全女よ拾ひて。おれと俄頃か
能る悪棍風俗頻よ髯をうけ接ぎ。同樹も。感嘆。臂近
る。於彼園を。ん取てあふぎ。立ちて。アを。己か孫もれ。さるあから。
本七丈婦。こよんべ。己か宿あ。田めか。所要あ。ぶさるる。こ
より。おをんせ振んと。四五六小膝を。め。つる。る。由縁あ。お
く。あ。孫と。現在孫のあり。うの。す。七よ。刀。流と。流せ。の。の。の。の。
の。と。流。ま。同樹。の。う。ち。ら。う。笑。も。彼。の。己。か。故。妻。小。田。井。よ。遠。き。
縁ありと。この春。さ。が。秘。て。来。り。し。く。信。や。う。も。歎。待。し。て。ま。婦。
養子の披。あ。さ。る。も。同樹。が。胸。よ。物。あ。る。な。に。それ。を。実。り。と。さ。れ。
こと。う。の。と。何。ら。う。う。小。鏡。論。せ。か。全。女。握。ま。る。春。を。掃。り。彼。ま。七。丈。婦。の。
家。隸。己。か。実。父。の。仇。人。よ。る。半。之。進。が。子。あ。る。より。四五六。己。か。あ。て。ま。り。ぬ。

養母の遺言然止まらぬ。今よまの進を教むこと。彼も又
仇人の半體仇人の杵の根を断て。紫の枯れも。只の時の再び
なれん。その屋と名を。祖父も許さぬ。立地は然と
復さん。ある飲。とさる。ゆ。煙管と丁と折。忿怒の面
さも。同樹の小藤と。根と拍。仇人の子。ねば。七を。警。さる。へ
現有理。その。後。つ。あり。四五六。八。腹中。今更。匿。む。う。ゆ
あ。ば。七。お。花。が。ゆ。り。る。あ。れ。此。と。の。あり。と。て。這。奴。ホ。を。肯
作。勢。と。其。の。と。四五六。全。め。小。侯。の。縣。正。より。溜。中。よ。お。花。を。迎
日。来。欲。と。そ。の。風。流。士。の。大。刀。を。取。ぶ。と。お。花。を。阿。容。と。い。へ。え。も。遍。よ
さ。備。彼。大。刀。の。と。同。と。あ。る。四五六。と。藤。一。封。の。澄。文。を。懐。中。し。と。
こ。こ。を。せ。て。七。お。握。し。せ。汝。今。も。小。侯。の。り。る。縣。正。が。宿。所。す。で。その
澄。文。を。持。来。せ。ば。所。予。の。大。刀。と。も。つ。と。と。現。賺。し。と。お。花。を。迎
竹。輿。よ。乗。り。と。口。る。撞。木。町。の。女。術。が。宅。へ。お。て。お。た。ね。日。と。藤
お。花。が。る。と。お。花。の。相。譚。と。さ。り。た。と。ば。年。を。廿。一。と。い。へ。と。も。六
あ。あ。し。と。二十。兩。詰。二。五。百。金。が。物。の。あり。と。さ。る。日。由。暮。て。初。夜。を。て
れ。ん。七。を。保。び。て。小。侯。の。縣。正。が。宿。所。へ。赴。き。件。の。大。刀。を。受。と。ん
と。い。へ。ん。あ。ら。渠。必。行。べ。い。里。遠。離。る。天。林。の。夜。の。棒。由。人。跡。絶。と。
面。は。川。あり。背。は。数。あり。全。め。さ。埋。伏。し。て。仇。の。仇。人。と。名。告
う。け。只。一。刀。は。砍。殺。せ。よ。と。七。既。は。死。さ。る。と。れ。の。根。を。花。を。復。達。と。ぬ。
元。街。へ。售。とも。後。肚。痛。む。四。五。さ。り。と。さ。る。り。早。く。と。死。き。よ
曉。れ。る。と。孔明。息。は。洗。滌。と。藤。よ。り。と。せ。洗。團。扇。と。い。て

被^まきつり。全^{ぜん}女^{にょ}をいつごと。ちま^{ちま}紙^しでま^まく。飲^のび^び仇^あ人の妻^{つま}を
詐^まりて。河^か井^いの床^せはま^まさるも。怒^{いら}を復^たさこれその一^{いつ}。あ^あらうぞ
ゆ^ゆくをやりもさ^さま^ま。天^{てん}神^{しん}川^{がわ}の敷^か畳^{じやう}。寝^ね刃^やあ^あらうぞ。待^{まち}んぞ。
勢^{いき}猛^{まう}く。意^いり。四^し五^ご六^{ろく}をた^ため^めよう。只^{ただ}点^{てん}紙^しの三^{さん}可^かとち^ちのい^いぞ。
同^{どう}樹^{じゆ}どのあ^あの合^がを獲^えさせ。全^{ぜん}女^{にょ}の仇^あ人を怒^{いら}況^げ談^{だん}合^がの旨^しけれど。
吾^わ儕^{せい}が肚^{はら}へ^へと^と絶^たて。海^{うみ}ま^まど。辛^{あま}苦^く淡^{たん}うら^{うら}定^{あや}價^ちく。ま^まのあ^あもす^すべ
け^けま^まど。り^りその凶^さ汰^たよ^よら^らど^ど。眼^めま^まら^らしてま^まど^どさ^さふ^ふ所^{ところ}。元^{もと}の毒^{どく}
あ^あらうぞ。老^{らう}人^{じん}よ。索^{さく}紙^し被^まてひ^ひう^うと^とど^ど。いつ^{いつ}は^は同^{どう}樹^{じゆ}へ目^め鼻^びと^とよ^よせ。
さ^さやく^{やく}四^し五^ご六^{ろく}。四^し五^ご六^{ろく}どの。吾^わ儕^{せい}よ女^{にょ}才^{さい}あ^あぶ^ぶさ^さ飲^のれ^れが^がと^とさ^さく
あ^あて^ても^もを握^{にぎ}り^りあ^あの袖^{そで}の中^{なか}。四^し五^ご六^{ろく}は^は愛^{あい}尔^にと^とう^うち^ち笑^{わら}て。け^けの相^あ場^ばへ
賤^{せん}け^けま^まど^ども。索^{さく}紙^しう^うら^らる^る紙^しる^るん^んば^ばか^かた^たか^かの^の走^は率^{りつ}よ。打^う粉^{こな}を
究^{くわう}竟^{じやう}る^る。與^あ敗^{たい}物^{ぶつ}の松^{しょう}刀^{とう}光^{こう}三^{さん}鷹^{たう}や^や。鈴^{すず}合^がのま^まら^らり^り。祝^{いわ}ひ
ゆ^ゆくと直^{ちよく}足^{あし}ふ^ふれて。同^{どう}樹^{じゆ}へ葬^{まう}と^と纏^{ちん}り^り。遠^{とほ}く^く火^ひ降^ふり^り。陶^{たう}器^きを
生^{なま}し^し。熱^{あつ}くと指^さは^は耳^{みみ}を^を接^あせ^せ。あ^あらうぞ。活^{かつ}説^せは^は実^{じつ}を^を入^いま^まて。缺^{けつ}代^{だい}の
あ^あれ^れ小^{せう}半^{はん}合^がを^を煎^{せん}酒^{しゆ}よ^よま^まら^らる^るぞ^ぞや。さ^さま^ま四^し五^ご六^{ろく}を^を下^げ戸^こら^らり^り。
物^{もの}を^をあ^あれ^れと^と牙^みを^を起^おこ^こ。家^か廟^{ぼう}の障^{せう}子^し推^おひ^ひ下^{くだ}り^りて。孤^こ陀^だの座^ざの
夏^{なつ}桃^{もも}子^し三^{さん}四^し枚^{まい}お^お敷^敷は^は裁^せせ^せも^もと^と元^{もと}ら^らる^る。兩^{りゆう}人^{にん}か^から^らと^とう^うら^らり^り出^でせ^せば。
四^し五^ご六^{ろく}を^を冷^{ひや}笑^{わら}ひ。百^{ひやく}金^{ごん}の祈^{いの}祝^{しゆ}は^は毛^け梳^か三^{さん}枚^{まい}と^と六^{ろく}朝^{あさ}三^{さん}暮^{くれ}四^し吾^わ儕^{せい}へ
こ^こま^まあ^あら^らる^る担^{たん}と^と推^お返^{かへ}ら^らう^う項^{かた}を^を伸^のべ^べて。家^か廟^{ぼう}の裏^{うら}を^をさ^さり^り。視^しま^まき。
全^{ぜん}女^{にょ}彼^{かれ}と^とん^んの^の多^たひ^ひ孫^{まご}進^{しん}命^{めい}婦^ふを^をお^おひ^ひ病^{やま}せ^せ。清^{きよ}水^{みづ}寺^{てら}乃^{なり}老^{らう}
法師^{ほうし}が^が草^{くさ}芥^{がい}よ^よ異^いら^らる^るぞ^ぞ。持^ぢ佛^{ぶつ}は^は代^{だい}と^とる^る美^み人^{にん}の^の画^え像^{ざう}彼^{かれ}へ^への^のふ
と^と指^させ^せば。全^{ぜん}女^{にょ}も^も又^{また}呆^{あは}れ^れ果^はる^る。欲^ほと^とま^まの^の浮^う世^よとい^いふ^ふと^とこれ^{これ}へ

南可後百卷六

又めりて。宗方へのほど。と低階。同樹煙管を券ふり。

 さんばとよこの画像の縁起あり。汝達もつらん。去家の秋

 大内殿俄頃よ整まのひところ。義基の北の臺槐姫の往方

 定くるべ。或の猛火の中よ入て死のふとも。或え或の通とつら

 女房が冊きて。幸く脱去のふとも。およよつて陶殿安

 ねだる言てや。昨の宵像を野画せて。縁因屋中。残る隈るく

 絹細し。この画像は似る女子あふ。捕捕て進ませ。賞銭

 にもよる。とて。さらさらへも戸毎に彼画像をのりせし。

 去家の冬のたがめるり。あつるに彼まは婦がこつて。姫乃

 画像を見て涙を落し。主の姫君よと。とて。懸て表装

 ねし。家番へ懸て。且夕は額を著。併果るんと。供と併痛

 どのも。此方よあつた。校計あれ。その随ひて。清のも。この。

 ま七か。彼首の画幅へ供物。全女もよう。笑て。彼画像は似る。女ま

 槐姫と。さるる。さる。捕へて。物ま。拵。ば。損の。ぬ。世。同。縁。起

 ね。は。件。の。如。と。説。示。せ。ば。全。女。の。四。五。六。を。と。り。て。彼。も。こ。れ。も。合。の

 蔓。け。の。よ。う。の。紙。改。め。て。祖。翁。さ。る。と。ん。習。つ。て。濡。ひ。で。栗。餅。と。る。如。く。

 よ。れ。髪。を。お。ね。ん。り。や。せん。と。り。ば。四。五。六。う。ち。点。改。入。の。こ。う。ん。れ。

 よ。れ。死。で。も。今。下。の。あ。る。の。の。さ。る。が。那。里。う。一。ま。の。宝。の。ふ。を。と。空。に。て

 諸。らん。より。戯。房。入。ひ。て。す。七。お。花。が。ぬ。り。と。後。よ。再。び。す。と。と。て

 傍。の。袂。色。の。端。う。い。ろ。く。脊。負。う。全。女。の。う。ち。も。ま。あ。れ。ば。同。樹。の

 外。面。う。ち。仰。ぎ。て。門。の。棟。は。日。影。が。落。ま。ば。申。時。あ。る。程。も。ほ。こ。れ

 こ。を。市。の。六。斎。毎。よ。四。五。と。と。出。會。ど。も。つ。け。ら。か。て。す。七。も。お。花。の

半ぐ四入と全女と認る程ど。物々々々。曉る全女も
 うせよ。といひつや。身を起し。襦は陶器とる。倒せ。はより
 酒と吐る。から。腹と持ち。と。慌忙。起し。ひとり。腹立服を
 穿り。あま。い。る。から。急ぐ。に。裾の。蔽。け。て。間。冷。を。席。薦。の
 野郎。又。飲。く。や。物。持。る。や。と。喧。ま。を。温。酒。を。指。へ。深。穴。を。天。寶。
 塗。つ。こ。バ。四。入。の。全。女。と。目。を。注。ぐ。冷。笑。ひ。熟。柿。は。似。る。穴。天。寶。
 酒。を。は。ぐ。洗。り。や。抜。け。ん。供。饗。の。柀。子。の。唾。ど。も。聖。六。醜。柿。と
 賞。配。せん。い。づ。の。人。と。て。生。ま。し。も。碎。く。櫛。の。三。尺。口。式。尺。又。寸。の。精。刀
 履。する。ま。に。身。を。ひ。移。る。人。啖。馬。由。七。首。中。さ。げ。が。同。樹。が。孫。を。れ。が。
 小。お。り。か。げ。て。全。女。も。い。そ。が。か。げ。お。ゆ。け。り。浩。外。又。す。せ。の。墓。を。見
 禪。の。層。洞。織。土。用。る。あ。ら。は。あ。れ。人。の。よ。れ。衣。着。る。あ。ら。は。あ。れ。と。も。隣。り

戸々々々。ち。め。ぐ。り。て。か。く。さ。の。妻。も。下。と。道。二。と。道。三。の。結。浴。衣。を。着。て
 町。を。れ。ぬ。背。背。帯。縹。子。の。ぬ。め。り。に。風。を。る。文。之。を。毎。よ。あ。ら。は。れ。お。花
 り。ろ。共。く。り。あ。ら。す。す。七。只。今。さ。ら。ら。と。呼。門。内。入。ま。し。同。樹
 見。え。り。て。鞭。を。ふ。ら。ち。笑。も。す。七。款。を。や。り。お。花。も。共。に。あ。ら。は。れ。る。
 宿。子。居。る。は。堪。が。た。い。見。有。も。さ。し。と。思。ひ。や。る。す。七。き。羽。織。由
 惟。子。も。脱。捨。て。涼。さ。の。お。花。も。浴。衣。は。脱。更。と。信。ち。あ。ら。は。れ。ば
 い。ろ。の。宿。子。居。る。は。格。別。あ。て。途。よ。出。て。風。は。吹。ま。て。お。ひ。の。外。へ
 凌。ぎ。易。し。喃。お。花。は。た。か。ま。の。宜。ふ。と。片。道。の。蔭。由。い。で。來。て
 笠。も。荷。よ。る。風。の。涼。さ。前。の。月。より。兩。光。の。さ。け。と。塵。埃。の
 た。ぬ。の。田。舎。の。一。得。禪。守。の。社。の。賽。天。神。の。こ。ろ。を。あ。ら。は。れ。ば
 す。七。ど。の。よ。め。た。の。て。り。終。も。も。ふ。あ。け。り。日。の。後。か。れ。ど。か

つくして却歩の果敢由る候。さぞ後れよと云ひけん。といふが同掛の
 うららりう笑え。いつふ女婦のうらつれ立て。世の務や保難やら。
 たましくのりなれば歩たる由ぬ後ほど湯を沸してぬるとおて
 汗流せんと云ひ。度ひのそめて年老の折居よりひるければ
 苗守まゝのそ描めおる。それのそあらば飲一さこと。おこ
 長しと云揺雅て。そらうら瞻仰て待てび。といひつゝ眉を
 顛まてす。すてらまはゆめおへむ。そらゆるゆのゆて。お苦しく
 と云とるぞ。親と憑とある。老人のおおひと。まぶげがよとすまて
 る。なほ假寐ながら刀治の家跡を冒さぬ。乃後乃縁し。
 匿ども只弱くと告げも志してゆひ。信と信の妻の縁とも。
 商人のうらと疎みて。物の要ありとむむおん。は舊は由縁を
 忘るるゆで。良人お索る。彼品と云り復んとくのおおひ。縁と
 ぶら脱まぬ負債やある。よりやうとるの借縁ありとも。す七
 どのようら任して。そのも劬勞を志ゆひ。そと女婦存うたう。
 いひ慰まば嘆息し。年弱まへとらまする。親切は祥されて。胸
 若しと云又一倍何の匿ん。笑も人おん。牙夫婦がゆ紙。そと。風流士
 の空刀の。いぬ。目た下めて。笑い。さむぐ。は思せし。小
 小侯の縣正と。陶殿小由縁ありと。不便のゆのよせとる。れば富田中
 鶴峯へも。常小業へて。云々まある。まじし承るゆのなる。は。それ又
 彼人の蔭を蒙ることあり。ゆのゆの條の顛末と。縣正は窓にお
 諸く歎きさる。波引せとる。とゆや。と云ひ。い。ま。和殿は手
 ぬの。縁とも。と云く。彼知へ赴き。と云む。おこ。ら。ら。と。と。と。お

陶殿と。既又四个國の主なるて不忠なるはけほど。内室近ごろ
あつたりあひつ。側室壁女妻をわめり。是れと云ふは稱をせ
るありの由あり。汝が親子す七が妻花とやらん。傳稀ある美人
あり。と夢傳より。彼お花を進ませるが。萬は二つす七が早次送る
るものあり。この外に陶殿よ。まじしやらんを志すべと。縣正の
宣はさるる。あつてさういふと。かき移ど。いふといふ。彌勒の世やど。
因流士の太刀の返りて。恋といふがさひかりのまじ。主婦の中を
裂きで成らざらむ。變易んといふ。す七お花がさういふと。お花と
うけ引よ。まじとあひ。と云ふ胸ひと。うよ。おひ。決して仰うひ。あつ
ゆひぬ。主あり。女子よ。ゆい。と。まじ。が。う。あ。亦。二。つ。る。死。使。傳。る。り。
お花が。と。ん。と。も。か。く。由。て。進。む。と。べ。只。彼。宝。刀。を。降。る。と。う。り。と。う。り。
賜り。ゆい。と。恋。く。ぬ。り。一。晩。の。月。の。り。あり。し。ふ。衛。正。の。縣。正。の。の。
う。り。猛。使。の。つ。つ。と。と。ま。ま。と。い。ふ。と。か。さ。る。和。殿。主。婦。の。家。の。よ。
在。ら。ね。ば。箇。字。憑。む。と。い。ふ。も。る。け。ま。ど。物。り。と。ぬ。身。の。後。易。
さ。八。門。の。戸。鎖。と。彼。使。者。よ。う。ら。つ。且。と。ら。て。小。使。へ。ま。れ。ば。懸。て
閑。室。よ。招。よ。せ。られ。縁。正。の。の。宣。ん。や。ら。汝。が。歎。き。さ。う。い。ふ。を。
陶。殿。よ。夢。え。あ。げ。よ。件。の。太。刀。の。陰。陽。二。口。の。名。物。あり。殊。又。は。秘。を
と。る。の。れ。ど。う。い。ふ。と。ま。ま。う。は。と。も。あ。つ。て。ま。の。の。よ。あ。つ。て。移。ど。美人。と
り。て。換。んと。ま。う。せ。ん。と。ま。も。又。然。止。が。と。と。深。窓。の。清。達。を
う。り。と。が。ど。只。市。中。風。流。の。少女。を。愛。す。と。汝。が。あ。つ。て。次。正。の。女子。を。
その。趣。より。口。が。ま。息。よ。稱。へ。り。ま。う。と。は。潜。よ。彼。花。と。や。ん。と。進。む。を。よ。
太。刀。の。り。う。え。て。賜。ふ。べ。と。仰。よ。ら。れ。り。と。花。を。口。が。女。見。や。り。と。由。所。

ぼるちわんせんよ。その准儀をせよ。この夕まは空舟よ。私率兩人
 をうりさし添て竹輿りて迎せよ。このとりのん馬よ。汝をこらひ。
 この角ころをばほし。と宣ひまらに。下まびの飲び。下まびを長言
 うけくまゆり。和敷丈婦と待てたり。忽率よ添くと吐く影
 みの志も秘ども。彼空刀どまたり復さる亦せんまもあうぐん。
 空よ長束のやわらこ。一ツをばぬま。と夫よ丈婦がころを
 推量よ。只涙のこ先うと。ひひり背向よ。伏沈。圓まる目を
 掲赤て。む苦。れあひらよん。ばせ七お花の目を注し。塞る胸と
 因く眉。いづまをよと決うねて。又いよもあひり。が。お花を袖よ
 涙を拭い。標を破り。秘を忍び。かの方ご多。糸ごん。いづる空刀を
 ちりも獲。よ。こもへ。と賞。ね。ち。て。けり。と。いひ。り。も。又。目。を。拭。い。ま。す。

頻ふ嘆息し。より獲うた空刀を獲て。あやう。め。の。あ。り。も。
 互逆の首領。陶晴賢が婢妻よ。妻を賣て。おん身が養。
 曾太郎。及よ塵。未。未。絶て。面をあらせ。が。り。義理を辨へ
 秘辱。をおひ。い。ん。う。る。ん。よ。あ。り。て。こ。そ。を。後。を。見。け。り。ひ。の。あ。れ。
 このこのまのうけ。い。げ。し。と。い。ふ。を。お。花。を。喜。し。と。も。い。つ。れ。ぬ。ま。ご。よ
 形る。牙の。も。く。と。ま。え。の。か。く。な。り。り。落。ま。る。谷。水。も。堰。と。め
 かし。袖の。雨。う。ぞ。賣。る。牙の。迎。の。竹。輿。も。羽。之。の。世。ま。る。れ
 玉の興。死。んと。お。ひ。決。め。つ。涙。を。禁。て。莞。々。と。ち。ら。笑。ふ。い。ひ。ひ。る。れ
 と。宣。ふ。牙。を。ほ。し。て。秘。も。あ。ら。ぬ。一。日。彼。如。く。糸。を。た。と。も。
 病。し。よ。假。托。を。う。り。あ。ら。ぬ。だ。れ。ら。ら。飽。ま。て。秘。ん。よ。あ。ら。ぬ
 り。の。ゆ。ま。も。槐。姫。を。け。い。ち。も。お。ん。往。方。定。る。あ。ら。ぬ。秘。ご。世。乃



羊七



うね身のま川やせ



おた子

のたの母流天母乃
 加美子人如美子
 安波秋止秋友子
 之如美子如美子
 一云同女并

つげの毛筋立今ぞ流まきゆく水掬は髻のおくま色うた
附て由。乱まきと袖とさめめり。拵し由隣まる小屋の仁階下。誰
かきとみゆの三弦也。外の裏まきとまのびきま生憎妙は唄を吹へ

「どつる身を何とみるその鬘化粧アられの櫛のうらまの由。
通りるるる夏の雨のうらみのかきその答るるんぞ。

胸の煙と蚊きり草。この間おさめあひとらうぞう

因樹の緑は偏祖ごごてあや火陣の燃えとらと。

敵けやめて滅易た人の命の羽まきとらあくふ。

「おバへのおの代裏も。落た緑と尺長はむまごの

かきの難面憎くや。この間おさめあひとらうぞう「あーや
これらとらよ癖つけて。あかきとらとら油とて拭ふ



ちろもあまの牝の指さく細うた見うね

借知は四五六の全女とゆりろ赤の麻の袴の裾さく。どう裾ひて

両刀をいりめく。後方よ竹輿をたけら刀作が門をさし取たあび

在宿せられ。縣正どの仰と稟お花女郎を迎とる。竹輿をさす

齋とらと密やうよ呼門が同樹の緑より飛とりて。春く頼を著

纏夜といひ。遠路のところ。各位を勞しなる。させる後いつとらふねど。

あづき盃とたてまつらんといひら。まを呼びとめ。頃目の夜の纏まき

女子を伴ふは更蘭てついと後む。縣正の結ぶびもつん。そがおあめて生

まれよ。衣裳調度の彼知めて。ちや調て持多う。どしどしとらふせど。

も花の良人よりら對ひ墓むれり人の命。今宵が一世の別まきと

らふへ憑むら未未二世の縁結。品さす子ふ入ふ。それをあらる面目ふ

可成り言事六
可成り言事六

浮名を雪めて主親へ入系して忠孝の名を揚家と嗣もいひ送さ
正長はくつるれども胸の痛くそえものいへど小侯の人わらじま
系う侍らんといひくひて解る事紙結びもれが守七も目を拭ひ
昔の浮世紙口るとも。夫婦の共は在て了を又慰るよとどごと
あれ身を汚さるる紙汚さるる真操か真の真操よりや
なぐさたごありとも。身を愛し命紙保再會の期を結む。纏えふ
通てけしは歎き紙あまをせぬあると。いひ諭せば候は圓着て息次
の。や。谷。小縁は出て同樹は對ひ恭しく。可憐み別と告。良の
うと。いひ遺さ。言葉のと。あ。い。つ。れ。曇。月。月。の。隈。る。夏。の。夜。の。
脚か。身。の。虫。の。音。慰。む。結。つ。守。七。も。端。近。く。目。送。ま。つ。同。樹。の。あ。り。て
お。花。を。扱。て。伴。の。竹。輿。よ。り。あ。せ。し。く。す。守。七。も。て。夜。は。出。て。四。五。六。全。夜。も
對ひ。疑ひ。ま。さ。あ。ゆ。ゆ。の。子。ど。既。は。の。女。子。と。進。了。又。某。を。ま。ま。世。
宝刀と今宵の月と。と。同。が。全。ぬ。ら。ち。息。次。を。の。と。の。い。ふ。易。う。ま。
乃。縁。正。の。の。う。澄。文。を。も。つ。り。ぬ。彼。人。の。と。指。さ。ば。四。五。六。の。懐。中。
より。澄。文。を。と。り。出。し。く。月。光。は。押。ひ。し。た。一。刀。は。同。樹。同。守。七。等。か。を。
ま。う。次。風。流。士。の。大。刀。の。の。右。権。次。後。より。下。り。の。つ。る。而。實。に。依。て
某。に。直。級。領。り。澄。文。の。一。紙。を。携。ぶ。る。件。の。大。刀。を。通。さ。ぶ。る。者。ら。う。
天文二十一年六月十六日。縁。正。小。侯。在。司。判。と。さ。り。守。七。も。流。不。て。あ。て
守。七。も。さ。せ。し。く。同。樹。も。改。を。領。つ。又。果。て。う。ら。ち。息。次。の。頭。か。る。澄
文。の。の。ま。の。件。の。宝。刀。は。守。七。が。子。の。あ。つ。と。ま。か。る。や。も。た。れ。の。お。か。ひ
も。う。と。い。ふ。間。よ。る。権。あ。ら。る。竹。輿。あ。ら。れ。一。夜。の。鶴。子。も。あ。ら。る。
お。ぬ。ま。の。顔。を。今。下。さ。び。と。し。く。ま。さ。ら。る。と。答。へ。ゆ。ま。り。ひ。乃。無。云。

南河愛記卷六

三

ひとこゑもた 杜鶴血を吐かりひと才七の仇おらる宿の花ちる
一 声啼く 杜鶴血を吐かりひと才七の仇おらる宿の花ちる
ふんええてとめあくと人のあはき紙を紙ひよああしうと
四五六全女只骨竹輿をいけつ。豆うらうくと走去けり。

白夢南栞後記卷之六終

